



19 中国 ウルムチ空港 拡張事業

航空需要増への対応を通じ
西部大開発に貢献

承諾額／実行額 48億9,000万円／33億9,000万円
 借款契約調印 1996年12月
 借款契約条件 金利2.3%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2004年3月
 実施機関 中華人民共和国中国民用航空総局
 URL: <http://www.caac.gov.cn/>



本事業の目的

新疆ウイグル自治区ウルムチ市に位置するウルムチ空港において、旅客ターミナルビルや航空保安施設を整備することにより、北西地域の航行の安全性確保および将来の航空需要増への対応を図り、北西地域の観光振興を含む経済活動活性化に寄与することを目的とする。

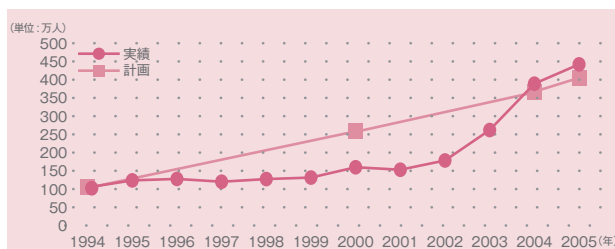
本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価a

航行の安全性について、旧滑走路はポーイング747が離着陸できる規模は有していたが強度は十分ではなかった。本事業により、滑走路の強度に加え、並行誘導路との間隔も国際民間航空機関基準を満たし、安全性は格段に向上した。また、航空需要増への対応は当初計画では貨物取扱量4.1万トン、旅客数405万人を予定していたのに対し、2005年実績では、貨物取扱量6.2万トン、旅客数442万人と、ともに当初計画を上回った。本事業開始時の1996年と実施後の2003年を比較すると国内観光客数が550万人から1,010万人に、海外観光客数が18万人から28万人に増加、GRDP(域内総生産)は1995年825億元から2003年1,875億元と2.3倍に増加している。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。事後評価時では第10次5カ年計画において西部地域の地方空港建設、中核空港と幹線空港の拡張・建設によって航空ネットワー

ウルムチ空港旅客数の計画と実績



クを整備することが課題として掲げられており、本事業実施はそれらの国家計画に整合しており妥当性は高い。

事業実施の経済性(効率性) 評価C

本事業は、期間について計画を大幅に上回り(計画比244%)、事業費については計画を上回ったため(計画比145%)、効率性についての評価は低かった。事業費増加および事業遅延の要因としては航空需要が飛躍的に拡大したことにより審査時を上回る事業規模となったこと、それに伴い事業実施にかかる手続きに時間を要したことが挙げられる。

今後の展望(持続性) 評価a

本事業で建設された各施設の維持管理は、中国の行政改革に伴い複数の政府機関が担当している。2004年に民用航空局空港施設管理部門が分離独立・株式会社化して、新疆空港集団会社が設立された。設立後間もない組織であるが、技術、体制、維持管理ともに大きな問題はない。財務的には赤字を計上しているものの、政府による補填も確認されており、高い持続性が見込まれる。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。教訓としては、期間の延長、事業費の増加等が効率性に影響を及ぼす可能性がある場合には、弾力的な事業監理、経営責任者への情報の集中および各機関との密接なコミュニケーションの確保等、事業を取り巻く環境全体の把握に努めることが挙げられる。

開発途上国専門家の意見

本事業は豊富な資源を有する新疆ウイグル自治区に輸送インフラ改善による経済効果をもたらした。事業費増加、事業遅延は航空需要増へ対応した事業規模拡大によるものであり総じて期待以上の事業効果が発現した。

専門家の氏名: Mr. Dexum Wang (王徳迅)(学者)
 中国社会科学院世界経済・政治研究所所長補佐。専門は経済、貿易、日本経済。